

ハーモニー春日部相談室からのメッセージ

ハーモニー春日部では、相談事業も行っています。今回のテーマは「介護とジェンダー」ですが、ハーモニー春日部の相談室では介護に関する悩みもよく耳にします。ご自身やパートナー、実親や義親の体力の衰え、病気、介護などを経験することから、今後の生き方についてどうしたらいいか考えたい、というご相談も増えているように思います。2021年に行われた市民意識調査によると家庭での役割分担について「家事」、「子育て」、そして「介護」等の全ての項目において「主として女性」が最も多い回答でした(2022年3月春日部市男

女共同参画に関する市民意識調査より)。ジェンダー(社会的、文化的に形成された性)に起因した、「介護をするなら女性」、「女性の方が細かなケアができるから」という思い込みで悩んでいる人もいます。介護疲れに悩む人たちは身体のケアのみならず、心のケアも必要はらずです。ハーモニー春日部相談室では、女性相談には女性相談員が、男性相談には男性相談員が寄り添って伺い、相談内容は守秘されます。相談室が男女共同参画の一助となれるよう、お待ちしております。

一人で悩まずご相談ください。
専門の相談員がお話を伺います。

ハーモニー春日部 相談のご案内
TEL.048-731-3333

女性の総合相談(女性相談員による相談)	月・火・水・金曜日	10:00～15:00	電話または面接
女性のからだの悩み相談(女性保健師による相談)	木曜日	13:00～16:00	電話または面接
女性のカウンセリング相談(女性カウンセラーによる相談)	第1・2・3土曜日	12:00～16:00	面接のみ
女性のための法律相談(女性弁護士による相談)	第4土曜日	13:00～16:00	面接のみ※
男性のための相談(男性産業カウンセラーによる相談)	第1日曜日	13:00～16:00	電話または面接

※市内在住/30分/年度内1回限り

編集後記

編集会議では、老老介護、認知介護、ヘルパー、デイサービスの役割、介護施設のあり方について話が深まりました。「こども食堂もおとな食堂も必要だ。地域で見守りが大切だ。孤独死、孤立死の話にびっくり。近頃は、隣近所の付き合いがなくなり、家族の動静もわからず、葬儀の知らせもなく、家族葬が増えている」と喧々諤々。

「ハーモニーフェスタ2024」は、講演、映画、トーク・コンサートと多彩。「認め合い、ささえあい、たすけあう」は「つながる、まじわる、ひろがる」にも通じる。人と喜びを分かち合う、人の痛みがわかることは人の共感関係、信頼関係を大切にすることだ。基調講演「小さなことなんかじゃない女性の人生にある痛み」の話は、性別役割分担、家事育児介護、ジェンダー平等に起因する。女性の能力の発揮を市民と考えたい。

編集委員 角田範夫・中田利見

各講座の詳細は
こちらまで

春日部市男女共同参画推進センター
ハーモニー春日部

開館時間 8:30～21:30 (12/29～1/3を除く)

春日部市緑町3丁目3-17
048-731-3333

mail: harmony.kasukabe@machikatsu.co.jp
hp: https://harmony.kasukabe-center.jp/



ハーモニー春日部の
ホームページはこちらから



バス ▶ 春日部駅東口より朝日バス「豊野工業団地方面行き」で約10分。バス停「ハーモニー春日部」で下車。
車 ▶ 無料駐車場がございます。講座開催日は混雑が予想されるため、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

春日部市男女共同参画情報誌 Vol.20 2025

シオリーヌ(大貫詩織)さん
(助産師、性教育 YouTuber)



「思春期病棟」や「摂食障害」について話をうかがいます。

食べるの怖いな
～痩せたら幸せになると思ってた～

2025年 2月16日(日)
13:30～15:30

©2022 HAGAZUSSA BOOKS

HARMONY KASUKABE

「ハーモニー春日部」は
春日部市男女共同参画推進センターの愛称です。
女性と男性の調和(ハーモニー)やセンターと
まちとの調和を願って名付けられました。
また、男女が社会の対等な構成員として
和音を奏でるという意味も込められています。

宮沢賢治の寓話を聴く
楽しいひととき

開館25周年
特別記念コンサート
音楽と語り「セロ弾きのゴーシュ」

2025年 2月23日(日)
14:00～15:30
演奏と語り: ひびき3



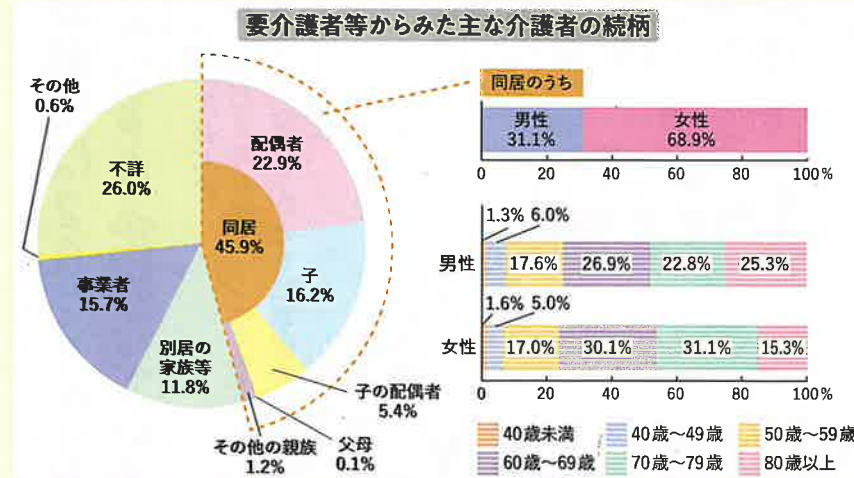
2025年 3月8日(土)
13:00～15:00
村上一博さん
(明治大学法学部教授)

朝ドラ法律指導者と考える
憲法と平等な社会
国際女性デー講演会
「虎に翼」を振り返り
改めて憲法を考える

ハーモニー春日部では2025年も
たくさんイベントを企画しています
昨年度も「ハーモニーフェスタ」をはじめ
さまざまな講座にご参加いただきありがとうございました。
今年度も「認め合い、響き合い、だれもがともに活躍するまち」を
目指して事業を進めてまいります。

家族介護とジェンダー

もしあなたに介護が必要となった時、だれに介護してもらいたと思いますか？

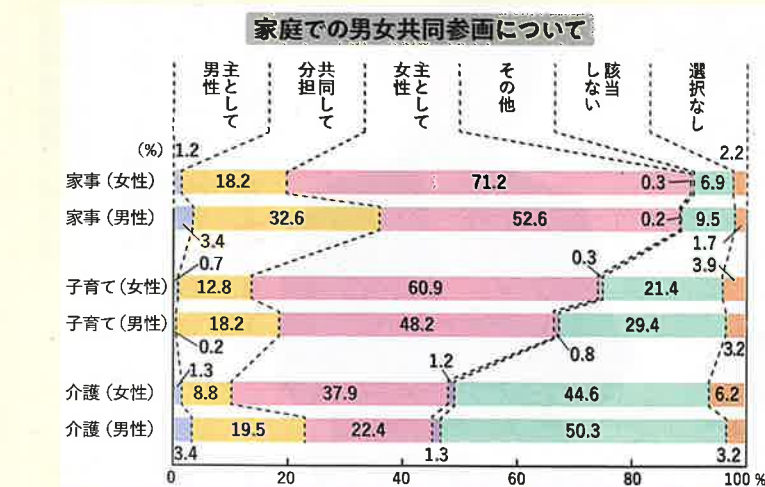


資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」(令和4年)
注1) 2022(令和4)年調査では、男性の「同居の主な介護者」の年齢不詳はない。
注2) 四捨五入の関係で、足し合わせても100.0%にならない場合がある。

性別に関わりなく「介護」は身近な問題です。

近年は男性の介護者も増えて来ていますが(令和6年版男女共同参画白書)、春日部市の市民意識調査でも、家事、育児、介護のケア労働は女性が担っていることが多く、家庭での男女共同参画が進むよう意識啓発が必要です。

介護による家族の負担を減らすには、適切な外部サービスを受けることと、固定的役割分担意識をなくし協力体制を考えることが大切です。

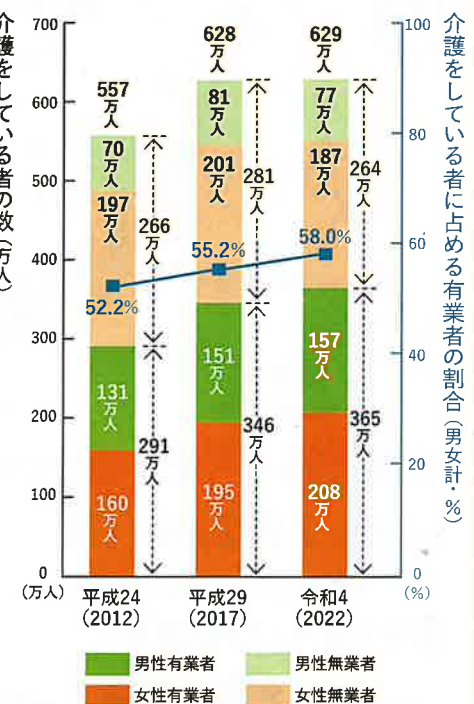


資料：春日部市「男女共同参画に関する市民意識調査」(令和4年3月)

厚生労働省のデータを見ると介護者の続柄は、同居している人が45.9%となっています。その主な内訳は、要介護者等から見て、配偶者が22.9%、子が16.2%、子の配偶者が5.4%となっています。また、その性別は、女性が68.9%、男性が31.1%と、女性の割合が多くなっています。さらに、同居の介護者の年齢をみると、女性介護者の46.4%、男性介護者の48.1%の方は70歳以上です。いわゆる「老老介護(※1)」「認認介護(※2)」のケースが存在していることが予想されます。

(※1) 高齢者の介護を高齢者が行うこと
(※2) 高齢の認知症患者の介護を認知症である高齢の家族が行うこと

家族の介護をしている者の推移(男女、就業状況別)



資料：内閣府「令和6年版男女共同参画白書」



「かかえ込まない家族介護」～頼れる先を知ろう～を開催しました。

2024年10月26日に、「LIFULL介護」編集長の小菅秀樹さんを講師にお迎えして介護に必要な知識や支援について学びました。



家族で介護を考えた時、安心できる制度やサービスを知る事が重要です。また介護休暇や介護休業の取得についても、早い時期から会社に相談しましょう。介護が終わってもあなたの人生には続きがあります。

自分を大切にすることが一番の親孝行なのです。介護に対するさまざまな思い込みをなくして頼れる先を見つけましょう。地域の情報を使って早めに相談に行くことをお勧めします。

参加者感想

- まだ早いと思っても親と話し合っておくことが重要だと思いました。
- つながる先を早く見つけておく選択肢が広がることができました。

介護離職や介護職の人手不足はどうしたら軽減できるのか。賃金の問題や働く環境などケア労働を社会で考えて行くことが大切。老老介護、認認介護の共通理解を深めたい。(編集委員)



地域包括に行ってみよう

介護の負担は自分では解からなくなってしまっていることもあります。自分の事を話せ、頼れる人はいますか？地域包括センターでは介護に関する相談や、介護者の集いなどを行っています。話すことで何かに気づくことやつながりが

ができることで、支えてもらえることも知っていただけたと思います。



第5地域包括支援センター 清水誠越さん

あなたの地域包括支援センターはこちら



介護者が孤立しないよう地域で見守ることも必要。介護者が少しでも一人になる時間を提供することや高齢者の孤食を軽減するためのおとな食堂等の取り組みなどを進めていきたい。(編集委員)



2024年11月13日「おとな食堂」が開催されました!



「ハーモニー春日部」で地域の方々が集まって食事を作って食べる「おとな食堂」が開催されました。参加者からは「少しの時間でも集まって共同作業をしながら、ごはんを食べることですぐつながりができた」「1人で食べるより美味しい」などの感想がありました。ハーモニーの近隣にお住まいの主催者の方は「地域にこのような場所が増えていくといい」と話しました。

